

目次

第 1 章 春日井市の環境行政	1
環境基本計画の概要	1
環境関連の主な動向	3
第 2 章 環境目標の達成に向けた施策の展開	4
環境目標の指標一覧	4
全体目標・環境目標 1 環境学習・パートナーシップ	6
環境目標 2 低炭素社会	14
環境目標 3 自然環境	15
環境目標 4 循環型社会	16
環境目標 5 都市環境・生活環境	20
第 3 章 地球温暖化対策実行計画	24
地球温暖化対策実行計画の概要	24
削減目標の進捗状況	25
第 4 章 生物多様性地域戦略	36
生物多様性地域戦略の概要	36
基本方針 1 多様な生き物の生息・生育環境の保全	37
基本方針 2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受	38
基本方針 3 生物多様性を支える人材の育成	40

p1～6、14～16、20、21 については、第 1 回環境審議会にて報告済みです。
 上記のうち、追加修正した箇所（p4、14 の指標）に下線を引いています。
 その他のページについては、今回新たに報告するものとなります。

第1章 春日井市の環境行政

環境基本計画の概要

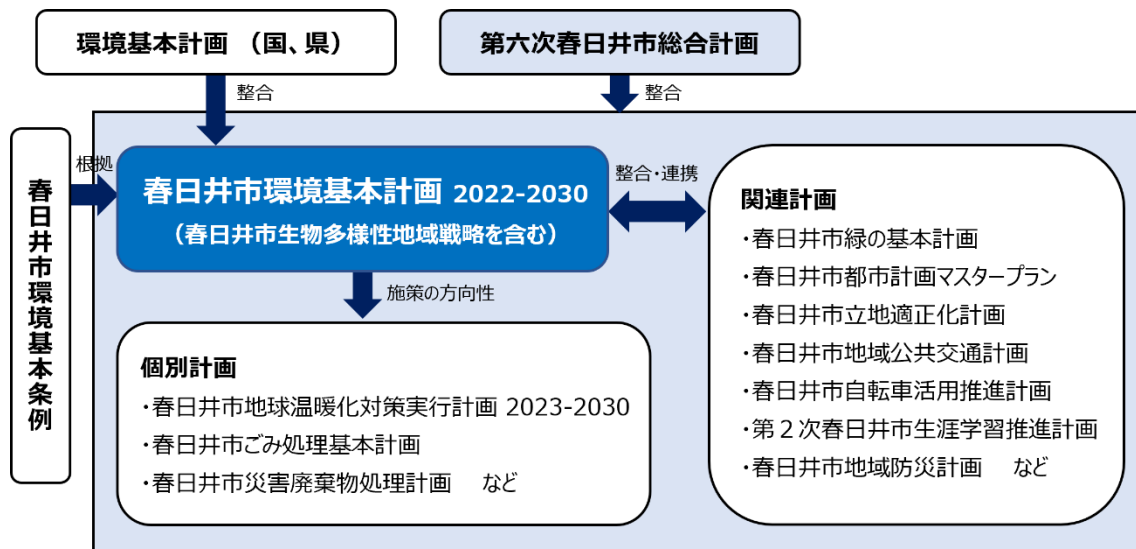
環境基本計画とは

春日井市の豊かな自然環境や生活環境を守り、かけがえのない地球環境を次世代に引き継いでいくことをめざし、市民・事業者・市が自主的かつ積極的に環境の保全等に取り組むとともに、相互に協力し、連携する考え方を明らかにしたものです。

計画期間

2022年度から2030年度までを計画期間とし、長期的に2050年を展望します。

計画の位置付け



環境像

豊かな自然と暮らしが調和する 環境にやさしいまち かすがい
～わたしたちの未来と地球のために～

施策の体系

環境像を実現するため、5つの環境目標を掲げ、それぞれの環境目標の達成に向けた施策の柱とその具体的な施策を定めています。

環境目標1「環境学習・パートナーシップ」は、環境学習により市民・事業者の意識を高め、市民・事業者・市が連携・協働して、新たな課題を解決することを幅広く推進していくため、全体目標とします。



指標

環境目標ごとに目標の達成状況を示す達成指標と、達成指標の実現に向けた具体的な行動を示す個別指標を設定しています。

計画の推進

市民・事業者・市のそれぞれが積極的に環境活動を行っていくことが重要です。

「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」を中心に、市民・市民団体・事業者・市などが、幅広く参加、連携して、本計画を推進していきます。

環境関連の主な動向


近年の主な動向（直近5年）


年	国際社会	国	愛知県	春日井市
2019	<ul style="list-style-type: none"> 「G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組」採択 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック資源循環戦略策定 パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定（2050年までに80%温室効果ガスの排出削減） 食品ロス削減推進法制定 		<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理基本計画改定 災害廃棄物処理計画策定 地球温暖化対策実行計画 2019-2030 改定 第3次産業振興アクションプラン策定
2020		<ul style="list-style-type: none"> 気候危機宣言 2050年カーボンニュートラル宣言 	<ul style="list-style-type: none"> レッドリストあいち 2020 及びレッドデータブックあいち 2020 公表 愛知県気候変動適応計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 都市計画マスタープラン策定 地域強靱化計画策定
2021	<ul style="list-style-type: none"> ノーベル物理学賞（地球気候の物理モデルの開発）受賞 生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)第一部開催 気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策推進法改正（温室効果ガス2050年実質ゼロ） 地球温暖化対策計画改訂 パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定（2050年カーボンニュートラル実現） 	<ul style="list-style-type: none"> あいち生物多様性戦略 2030 策定 第5次愛知県環境基本計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通計画策定 自転車活用推進計画策定 緑の基本計画策定 ゼロカーボンシティ かがい宣言
2022	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)開催 生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)第二部開催 		<ul style="list-style-type: none"> あいち地球温暖化防止戦略 2030 改定 	<ul style="list-style-type: none"> 環境基本計画 2022-2030 策定 公共施設等マネジメント計画改定
2023	<ul style="list-style-type: none"> 「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書」採択 気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）開催 G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催 			<ul style="list-style-type: none"> 第六次総合計画改定 地球温暖化対策実行計画 2023-2030 改定 第2次生涯学習推進計画改定


第2章 環境目標の達成に向けた施策の展開






環境目標の指標一覧

【進捗状況の見方】

 目標を達成、または目標達成に向けて順調に進んでいます。

 改善傾向にありますが、さらなる努力が必要です。

 改善の傾向にありません。

環境目標		指標	前回値 (2021年度)	最新値 (2022年度)	目標値 (2030年度)	進捗 状況	市関連計画
1 環境学習・ パートナーシップ	達成	☆環境まちづくり参加人数 (総人口比)	13.6%	21.1%	維持(16.9%)		-
	個別	☆青空教室、出前講座の参加人数 [延べ]	83,462人	88,956人	120,000人		-
		☆自然環境の保全を行う市民団体など の会員数 [延べ 単年度]	545人	552人	700人 (2026年度)		第六次総合計画
		環境に配慮した事業所数 [延べ 単年度]	148事業所	集計中	増加		-
2 低炭素社会	達成	温室効果ガス総排出量 (2013年度比)	-21.6% (2020年度)	集計中 (2021年度)	-46%		地球温暖化対策 実行計画
		☆民生家庭部門 温室効果ガス排出 量 (2013年度比)	-18.0% (2020年度)	集計中 (2021年度)	-66%		地球温暖化対策 実行計画
	個別	☆各世帯の1か月当たりの平均の 電気使用量	291kWh	280kWh	245kWh		地球温暖化対策 実行計画
		市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (公用車除く) ※1	23,022t-CO ₂	21,003t-CO₂	16,016t-CO ₂		市役所地球温暖 化対策行動指針
		☆災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016年度)	55.3% (2021年度)	60.0% (2026年度)		第六次総合計画
		☆熱中症の搬送人数	88人	137人	減少		-
	雨水流出抑制施設 [累計]	53施設	56施設	55施設		-	
3 自然環境	達成	自然環境への満足度	36.1% (2016年度)	23.5% (2021年度)	増加		第六次総合計画
		市内全体の緑被率	42.0% (2014年度)	40.6% (2020年度)	維持(40.6%)		緑の基本計画
個別	☆自然環境保全活動推進員の 委嘱人数 (任期2年) [延べ]	190人 (2019年度)	226人 (2021年度)	350人		生物多様性地域 戦略	
	民有地緑化の箇所数を増やす (あいち森と緑づくり事業)	2箇所	3箇所	5箇所		緑の基本計画	
	☆アダプト・プログラム参加団体数	9団体	10団体	15団体		緑の基本計画	
	☆公園・緑地づくりのワークショップの 実施数 [累計]	2公園	2公園	10公園		緑の基本計画	

環境目標		指標	前回値 (2021年度)	最新値 (2022年度)	目標値 (2030年度)	進捗状況	市関連計画
4 循環型社会	達成	1人1日当たりごみ排出量	706g	687g	660g (2028年度)		ごみ処理基本計画
	個別	☆1人1日当たり家庭系ごみ排出量	513g	496g	487g (2028年度)		ごみ処理基本計画
		事業系ごみ排出量	21,710 t	21,470 t	19,557 t (2028年度)		ごみ処理基本計画
		☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	87.1%	88.0%	90.0% (2024年度)		第六次総合計画
		1人当たりごみ処理費用	13,710円 (2020年度)	14,741円 (2021年度)	11,131円 (2028年度)		ごみ処理基本計画
5 都市環境・生活環境	達成	交通の利便に対する満足度	2.53 (2016年度)	2.86 (2021年度)	2.80 (2025年度)		地域公共交通計画
	個別	環境基準達成率(大気・水質・騒音)	12項目中 10項目達成	12項目中 10項目達成	項目ごとに 100%達成		-
		☆市内バス ^{※2} の年間利用者数	3,796千人 (2020年度)	4,058千人 (2021年度)	5,415千人 (2025年度)		地域公共交通計画
		基幹的公共交通の人口カバー率 (居住誘導区域)	65.7% (2010年度)	65.3% (2020年度)	65.5%以上 (2026年度)		立地適正化計画
		自転車通行空間の整備延長【累計】	32.1km (2020年度)	32.1km	53.9km (2023年度)		自転車活用推進計画
汚水処理人口普及率	88.4% (2020年度)	88.5% (2021年度)	95.0% (2026年度)		第六次総合計画		

※1：電力会社が供給した電力量と排出係数により算出した値から、排出クレジットや固定価格買取制度に伴う調整等を反映した値

※2：名鉄バス及びかすがいシティバス

☆：市民の努力が反映される指標

[延べ]：毎年度加算され、出前講座と青空教室ともに参加しているなど重複がある値

[延べ単年度]：単年度の値だが、複数の市民団体に加入しているなどの重複がある値

[累計]：毎年度加算され、重複がない値

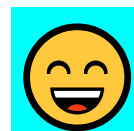
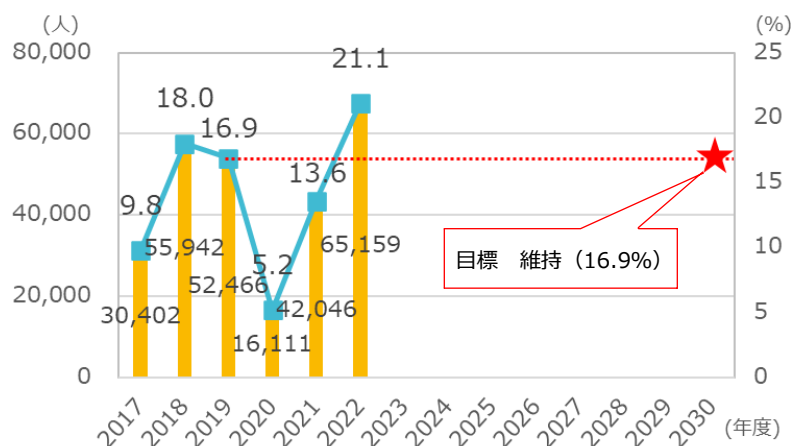
全体目標・環境目標1 環境学習・パートナーシップ



環境について学び、市民・事業者・市が連携・協働して環境にやさしい行動を行うまちを目指します。

指標の進捗状況

達成指標 ☆環境まちづくり参加人数（総人口比）



2022年度
21.1%

環境まちづくり参加人数は、前年度から大幅に増加し、目標値に達しました。

新型コロナウイルス感染症の感染縮小を受け、再開するイベントが増えたことが、増加要因として考えられます。

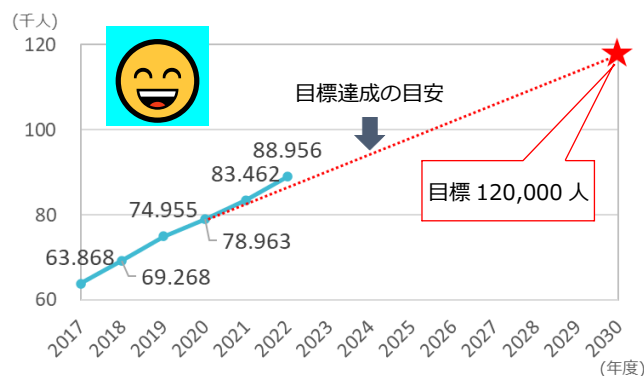
個別指標

☆青空教室、出前講座の参加人数【延べ】

ごみの減量などについて学ぶ青空教室は、小学校37校、幼保育園47園で実施しています。

地球温暖化について学ぶ出前講座は、小学校等で7回実施しています。

2022年度 延べ
88,956人



個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境の保全を行う市民団体などの会員数【延べ 単年度】	545人 (2021年度)	552人 (2022年度)	700人 (2026年度)		第六次総合計画
環境に配慮した事業所数【延べ 単年度】	148事業所 (2021年度)	集計中 (2022年度)	増加 (2030年度)	-	-

施策の展開

○子ども環境アカデミー

子ども（小学4～6年生）とその保護者を対象に、見学や体験を交え楽しみながら家族ぐるみで環境について学び、考えるきっかけづくりとするため、全5回の連続講座を実施しました。



子ども環境アカデミー

2022年度は15組31名の方が受講し、環境への取組みを率先して実施するエコファミリーの育成を図ることができました。

実施内容（2022年度）

講座名	講師	開催日	参加者
パソコンの分解にチャレンジ ～お宝（レアメタル）を探し出せ！～	シーピーセンター 株式会社	8月7日（日）	15組 33名
親子おもしろ実験室 ～水質調査体験と液体ちっ素を使った実験～	市職員	9月10日（土）	13組 31名
秋の里山探検！自然環境学習会	自然環境保全 活動推進員	11月12日（土）	12組 26名
南極の料理人が見た、地球の環境異常とは？ ～閉鎖空間での人付き合い術とメンタル 維持はいかに！～	Bar de 南極料理人 Mirai オーナーシェフ 篠原 洋一	12月10日（土）	245名 ※1
クリーンセンターバックヤードツアー	市職員	1月28日（土）	11組 27名

※1：子ども環境アカデミー参加者は10組21名



パソコンの分解にチャレンジ(第1回)



クリーンセンターバックヤードツアー（第5回）

○市民環境アカデミー

環境について幅広い知識を有し、環境への取り組みを実践できるリーダー的な役割を担う人材を育成するため、地球温暖化、資源循環、生物多様性、海洋汚染など、幅広く環境について講義などを通じて学べる全6回講座を実施しました。



市民環境アカデミー

2022年度は受講者40人のうち、全6回中5回以上出席した30人の方へ修了証を交付しました。

実施内容（2022年度）

講座名 <テーマ>	講師	開催日	参加者
気候変動が永久凍土に及ぼす影響 <気候変動>	名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授 檜山 哲哉	9月21日（水）	36名
毎日の買い物でよりよい社会をつくる <エシカル消費>	NPO 法人環境市民 フェロー 有川 真理子	11月11日（金）	34名
海洋生態系の保全と国際社会 <海洋生態系の保全>	中部大学 国際関係学部国際学科 教授 加々美 康彦	11月25日（金）	30名
南極の料理人が見た、地球の環境異常とは？ ～閉鎖空間での人付き合い術とメンタル 維持はいかに！～ <地球温暖化・ごみ減量>	Bar de 南極料理人 Mirai オーナーシェフ 篠原 洋一	12月10日（土）	245名 ※1
グリーンイノベーションを創造する材料技術 <環境技術>	名城大学 理工学部材料機能工学科 教授 岩谷 素顕	1月17日（火）	30名
協働の可能性と課題 <環境活動>	日本福祉大学 国際福祉開発学部 特任教授 千頭 聡	2月8日（水）	29名

※1：市民環境アカデミー参加者は31名



気候変動の講義（第1回）



海洋生態系保全の講義（第3回）

○市民環境フォーラム

市民の環境活動への取組みの推進と団体や個人等の交流促進や環境情報を提供するために市民環境フォーラムを開催しています。



市民環境フォーラム

2022年度は、かすがい環境賞及び環境絵画コンクール春日井市長賞の表彰式、南極地域観測隊に調理師として2度参加した経験を持つ「Bar de 南極料理人 Mirai」オーナーシェフ 篠原洋一氏をお迎えした基調講演を行いました。

基調講演では、南極の自然環境や、基地における食事や娯楽など、クイズを交えながらの紹介、さらに南極の氷を解かす原因の一つとしてPM2.5等の汚染物質を挙げ、各々が自分にできることから取組むことの大切さをお話いただき、参加者が地球環境を考える良い機会となりました。

実施内容（2022年度）

開催日	場所	参加者	内容
12月10日 (土)	東部市民センター	245人	<ul style="list-style-type: none"> ○かすがい環境賞 個人：二宮 善彦 団体：春日井市の会、高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会 ○環境絵画コンクール春日井市長賞 笠波 葉月 タイトル：きらきら海と魚たち ○基調講演 テーマ：南極の料理人が見た、地球環境異常とは？ ～閉鎖空間での人付き合い術とメンタル維持はいかに！～ 講師：「Bar de 南極料理人 Mirai」オーナーシェフ 篠原 洋一



「かすがい環境賞」表彰



基調講演



ラッピングしたごみ収集車との記念写真

〇かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議

市民、事業者、市の三者協働による環境まちづくりを推進する組織として、2002年12月に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議（以下、「PS会議」という。）」が設立され、2022年度末の会員数は市民31人・市民団体15団体・事業者6社となっています。



かすがい環境まちづくり
パートナーシップ会議

PS会議は、市の環境に関するイベントに参加・共催するとともに、市民や市民団体の連携の輪を広げるため、様々な自主イベントを実施しました。

主なイベント（2022年度）

イベント名	開催日	内容
庄内川アダプト （高蔵寺運動広場）	6月 5日 （日）	主催者のたかくらこどもエコクラブの指導のもと、河川敷のごみ拾いと水生生物調査、水質調査を行った。燃えるごみ5袋、燃えないごみ2袋を回収したほか、水生生物調査では、オイカワやカワムツ、ヒラタドROMシなどを見つけることができた。
ホタルの観察会	6月 12日 （日）	少年自然の家の多目的広場前でホタルについての解説や観察にあたっての注意点を説明した後、野草園へ移動し、ホタルの観察を行った。子どもたちから大人の方まで、それぞれが暗闇に淡く光る風情を楽しんだ。
庄内川アダプト （熊野グラウンド）	7月 2日 （土）	熊野グラウンド周辺の庄内川河川敷にて、河川敷のごみ拾いと水質調査、水生生物調査を行った。水質調査では、透視度は約35度、pHは8.0~8.5となり、カワヨシノボリやカワムツ、ヒゲナガトビケラなどを観察することができた。
林間学校「竹で 水鉄砲を作ってみよう！」	7月 30日 （土）	かすがい里山自然楽校の協力のもと、竹の水鉄砲づくりと自然観察を行った。自生する植物を実際に触ったりにおいを確かめたりと自然の豊かさを体感した。その後、竹を使った水鉄砲を作製し、濡れると色が変わる的に水を打ち、動物の姿がくっきり現れるまで時間をかけて楽しんだ。
親子で楽しくエコ・クッキング教室	1月 14日 （土）	事業者会員である東邦ガスネットワーク株式会社の協力のもと、環境のことを考えた「買い物・料理・片付け」を実践する『エコ・クッキング』を開催した。講師の方から教わったエコポイントを実践しながら、グループみんなで協力してエコ・クッキングに挑戦した。普段調理することの少ないサボテンに戸惑いつつも、楽しく調理することができた。
冬のエコツアー 「サルたちから 環境問題を知ろう！」	2月 25日 （土）	キュレーター（学芸員）の方による講義で、食料品や洗剤等に使用されているパーム油を採るためにマングローブ林が大規模に伐採され、アブラヤシのプランテーションが作られた結果、サルたちの生息域を奪ってしまっていること、津波の被害が増え、人間にも影響が及んでいることなどを学んだ。その後、園内を周り、貴重なサルを観察するができ、有意義な時間になった。



エコ・クッキング教室



冬のエコツアー

○市民団体による環境保全活動

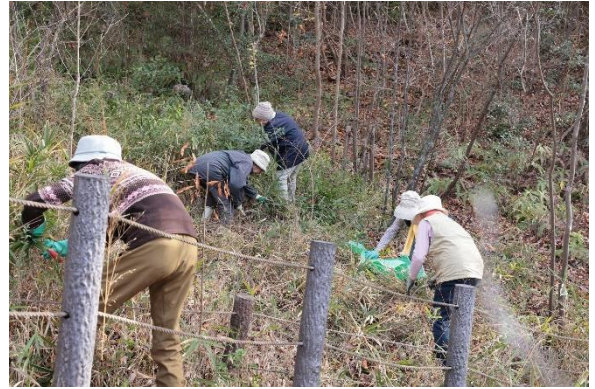
持続可能な社会の実現に寄与するため、PS 会議の市民団体会員により、様々な環境保全活動が行われています。

PS 会議の市民団体会員による環境保全活動（2022 年度）

市民団体名	活動内容
ガールスカウト愛知県第 110 団	ガールスカウトの理念に則り、森・水などの知識を自然体験を通して身近なものとするプログラムを年間通して実施した。
春日井 SDGs 推進ネットワーク	国連が 15 年間（2016～2030 年）で達成するために掲げた 17 の国際目標である『持続可能な開発目標（SDGs）』を推進することを目的に活動した。
かすがい里山自然楽校	潮見坂平和公園内の自然環境整備を通じて、希少種や重要な植物群の保全を行った。
春日井里山保存会	春日井市指定希少野生動植物の保護活動や生息調査、休耕田ビオトープの保守保全を行った。
かすがいシェアリングネイチャーの会	ネイチャーゲームを通じて自然への憧憬を深め、自然環境の大切さを学び伝える活動を行った。
春日井自然友の会	廻間町地内でイノシシから希少植物を保護するためのフェンスを設置したほか、ゲンジボタルの生息地である大谷川一帯で、ホタルが産卵し生息できるよう、壊された川岸の修復整備を行った。
春日井スカウト団協議会	緑と花のフェスティバルにて缶切り、ペンダント作りなどを実施するとともに、社会を明るくする運動にも参加し、市民とのふれあいを通して、スカウト団の活動を伝える活動を行った。
かすがい東部丘陵自然観察会	アゲハの観察に用いるアゲハソウを育成し、小学校へ配布した。また、月一回の自然観察会を開催するほか、小学校の自然観察会や野外学習の補助を行った。
環境学習ネットワークグループ	高座小学校で、小学校区内にある新池、庄内川、高座山をフィールドとした自然探検を支援した。また、みろくの森でチョウの住める里山整備・保全活動を実施した。
就労相談支援センター紙ひこうき	市内外の企業や個人等に、フードロスの削減に向けた理解と協力を求めるとともに、調理実習やフードドライブを開催した。
たかくらこどもエコクラブ	拾ってきた石で作る「ペーパーウェイト」やトイレットペーパーの芯を利用した「小物入れ」など、エコ工作を行った。また、庄内川で「ガサガサ探検」や、潮見坂平和公園で「自然探検」を行った。
特定非営利活動法人高蔵寺どんぐりs	高森山の整備による里山づくりを実施した。高森山に植生するツツジやササユリの生態を守るために、常緑樹の除伐やシダ類の下草刈を行い、植物が生息しやすい環境を整えた。
特定非営利活動法人ザ・希望	障害者・高齢者の借り上げた農地を利用して市民菜園事業、安心安全のための成年後見制度の利用等の援助事業を行った。
みろく山麓の自然を守る会	築水池北岸湿地、池周回散策路の自然観察を行った。冬季から初夏にかけて、湧水湿地の保全作業（ササなどの除去）及び散策路の傷んだ階段の補修や、周辺林内の里山環境の保全（国内外来種などの除伐）作業を行った。またその都度ごみ拾いも行い、領域周辺的环境維持に努めた。
ワイルドワイフ	野外の活動を中心に、親子で野生生物のカモフラージュや食物連鎖、野生で生きることの難しさ、自然環境の問題など一見難しそうな内容も『Project Wild』のアクティビティを用いて、楽しく学び、体感する講座を実施した。



川岸の修復整備（春日井自然友の会）



湿地保全活動（みろく山麓の自然を守る会）



自然探検（たかくらこどもエコクラブ）

○環境絵画コンクール春日井市長賞

パナソニック エコシステムズ株式会社では、子どもの頃から環境を意識した行動ができるよう「環境絵画コンクール」を実施しています。市はこの趣旨に賛同し後援するとともに、特別賞「春日井市長賞」を設け、受賞作品をごみ収集車にラッピングしています。



環境絵画
コンクール
春日井市長賞



第17回環境絵画コンクール
春日井市長賞作品



受賞作品がラッピングされた
ごみ収集車

○かすがいエコオフィス認定事業所の拡大と支援

節電や節水、ごみの減量化、次世代自動車の導入など環境に配慮した取り組みを実施している事業所を応援するため、「かすがいエコオフィス認定制度」を設けています。



かすがいエコオフィス
認定制度

「かすがいエコオフィス」に認定されると、認定証と認定ステッカーが交付され、環境活動のPRに活用できるほか、「エコオフィスかすがい」のロゴマークを名刺やチラシ等に印刷して使用することができます。また、環境に配慮した取り組みを行う事業所として市ホームページで紹介しています。2022年度末に認定されている「かすがいエコオフィス」は65事業所です。



認定ステッカー

○エコワールド

春日井まつりにおいて、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議を始めとする市民団体、事業者、市等が協働でブースを出展し、環境に関する啓発を行う「エコワールド」を開催しています。

2022年度は、計11団体が出展し、2日間で延べ11,884人の方にご来場いただきました。

No.	出展団体
1	かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議
2	かすがいシェアリングネイチャーの会
3	パナソニック エコシステムズ株式会社
4	王子製紙株式会社 春日井工場
5	中部大学 ESD エコマネーチーム
6	株式会社 LIXIL
7	株式会社トヨタレンタリース名古屋
8	春日井市環境政策課
9	春日井市環境保全課・環境分析センター
10	春日井市ごみ減量推進課
11	春日井市清掃事業所



間伐材アクセサリーブクリ
(かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議)



大きな折り紙体験
(王子製紙株式会社 春日井工場)

環境目標 2 低炭素社会



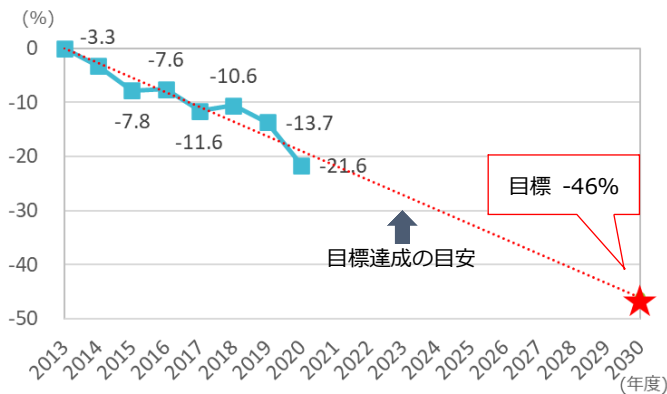
関連



省エネルギーの取組みが市民や事業者に定着した低炭素なまちをめざします。

指標の進捗状況

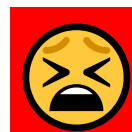
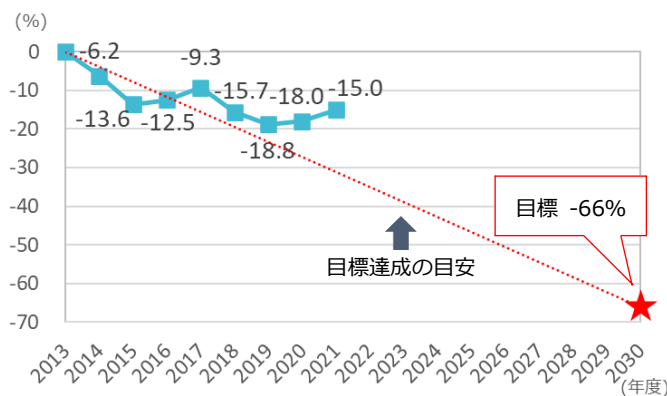
達成指標 温室効果ガス総排出量（2013年度比）



2021年度

集計中

☆ 民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013年度比）



2021年度

-15.0%

民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013年度比）は増加傾向にあります。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆ 各世帯の1か月当たりの平均の電気使用量	291kWh (2021年度)	280kWh (2022年度)	245kWh (2030年度)		地球温暖化対策実行計画
市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量（公用車除く）※1	23,022t-CO ₂ (2021年度)	21,003t-CO₂ (2022年度)	16,016t-CO ₂ (2030年度)		市役所地球温暖化対策行動指針
☆ 災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016年度)	55.3% (2021年度)	60.0% (2026年度)		第六次総合計画
☆ 熱中症の搬送人数	88人 (2021年度)	137人 (2022年度)	減少 (2030年度)		-
雨水流出抑制施設【累計】	54施設 (2021年度)	56施設 (2022年度)	56施設 (2030年度)		-

※1：電力会社が供給した電力量と排出係数により算出した値から、排出クレジットや固定価格買取制度に伴う調整等を反映した値
 施策の展開については、第3章 地球温暖化対策実行計画（p24～）を参照してください。

環境目標 3 自然環境



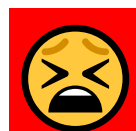
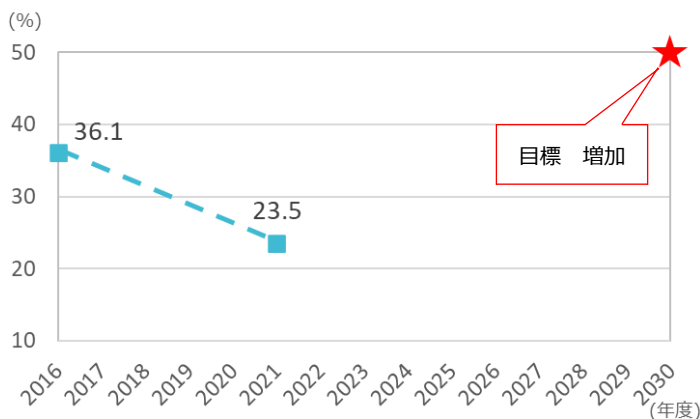
関連



自然環境や生態系が保全され、豊かな自然の恵みを楽しむまちをめざします。

指標の進捗状況

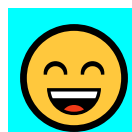
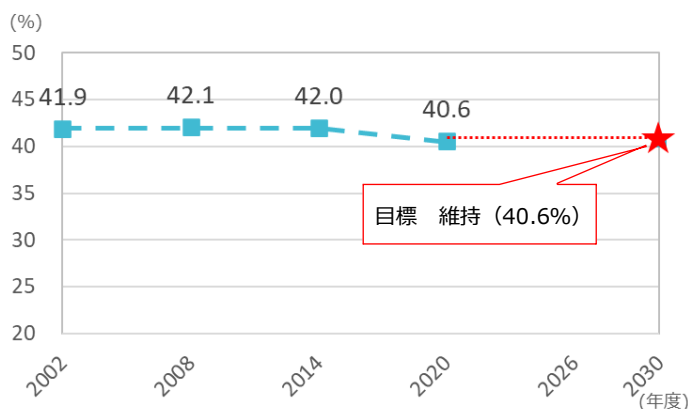
達成指標 自然環境への満足度



2021年度
23.5%

2021年度の市民意識調査の結果、自然環境への満足度は減少傾向となっています。

市内全体の緑被率



2020年度
40.6%

2020年度に算出した市内全体の緑被率は40.6%であり、この値を維持することを目標としています。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数(任期2年) [延べ]	190人 (2019年度)	226人 (2021年度)	350人 (2030年度)		生物多様性地域戦略
民有地緑化の箇所数を増やす(あいち森と緑づくり事業)	2箇所 (2021年度)	3箇所 (2022年度)	5箇所 (2030年度)		緑の基本計画
☆アダプト・プログラム参加団体数	9団体 (2021年度)	10団体 (2022年度)	15団体 (2030年度)		緑の基本計画
☆公園・緑地づくりのワークショップの実施数 [累計]	2公園 (2021年度)	2公園 (2022年度)	10公園 (2030年度)		緑の基本計画

施策の展開については、第4章 生物多様性地域戦略 (p36~) を参照してください。

環境目標 4 循環型社会



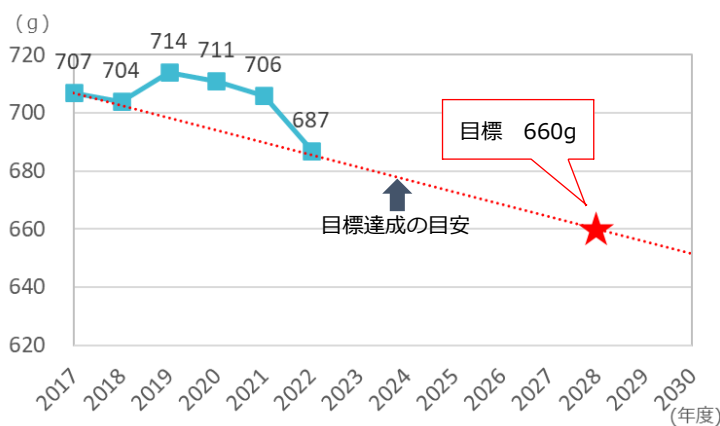
関連



4R やごみの適正処理に取り組み、ごみを減らし資源を循環することができるまちをめざします。

指標の進捗状況

達成指標 1人1日当たりごみ排出量



2022年度
687g

1人1日当たりごみ排出量は減少傾向にあります。さらなる努力が必要です。

※2022年1月にクリーンセンターで発生した火災事故の影響により、2022年1月18日から25日までの期間に搬入されたごみを計量しなかったため、その分を推計量として2021年度の排出量に含めています。

個別指標

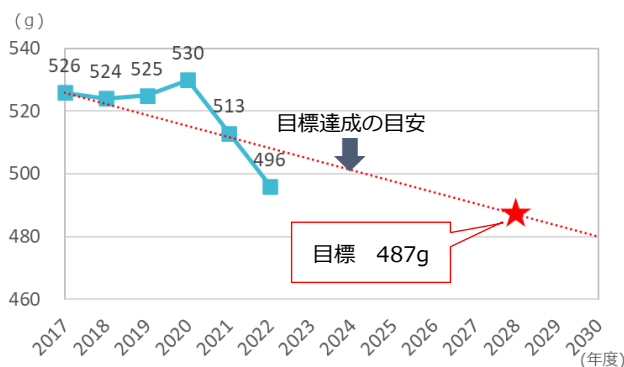
☆ 1人1日当たり家庭系ごみ排出量

1人1日当たり家庭系ごみ排出量は目標達成に向けて順調に進んでいます。

前年度に比べ減少しています。



2022年度
496g



※2022年1月にクリーンセンターで発生した火災事故の影響により、2022年1月18日から25日までの期間に搬入されたごみを計量しなかったため、その分を推計量として2021年度の排出量に含めています。

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
事業系ごみ排出量	21,710 t (2021年度)	21,470 t (2022年度)	19,557 t (2028年度)		ごみ処理基本計画
☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	87.1% (2021年度)	88.0% (2022年度)	90.0% (2024年度)		第六次総合計画
1人当たりごみ処理費用	13,710 円 (2020年度)	14,741 円 (2021年度)	11,131 円 (2028年度)		ごみ処理基本計画

施策の展開

○環境カレンダー、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」等の利用促進

家庭からのCO₂排出量分かる「環境家計簿」と「資源・ごみ出しカレンダー」を組み合わせ「環境カレンダー」と、資源・ごみの出し方を詳しく掲載した「資源・ごみの出し方便利帳」を作成し、広く市民に配付することにより、資源分別、ごみの減量や省エネが地球温暖化防止につながる取組みであることを啓発しました。また、2018年3月に導入したごみ収集日や分別方法の検索機能などを有するスマートフォン用ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のインフォメーション機能を活用し、情報提供に努めました。



環境カレンダー



環境カレンダー



ごみ分別アプリ「さんあ〜る」

○かすがいクリーン大作戦

多くの市民や団体の方々と協働で快適な住みよい生活環境を実現することを目的として、市内全域で春季、秋季の年2回クリーン大作戦を実施しています。



かすがい
クリーン大作戦

2022年度は、春季・秋季合計で、区・町内会・自治会 731 団体、参加人数 71,438 人の参加があり、計 319.03 トンのごみを収集することができました。



2022 年秋季かすがいクリーン大作戦

かすがいクリーン大作戦の過去3年間実績

	2020 年度		2021 年度		2022 年度	
	春季※1	秋季	春季※1	秋季	春季	秋季
参加団体	—	362 団体	—	345 団体	372 団体	359 団体
参加人数	—	38,180 人	—	35,104 人	34,799 人	36,639 人
ごみ収集量	—	213.36t	—	170.25t	165.12t	153.91t

※1：2020 年度春季、2021 年度春季は新型コロナウイルス感染拡大のため中止

○エコ先案内人

ごみの減量やリサイクル、家庭でのエコ生活などについて、親子を対象に環境紙芝居やエコクイズ、エコ工作を通して、楽しく分かりやすく案内する「エコ先案内人」を実施しました。毎月1回、日曜日の午前10時から午後2時まで、11月はエコメッセフェスタの催事の中で、クリーンセンターの環境啓発施設エコメッセ春日井において開催し、3月までに延べ338人の参加がありました。

実施内容（2022年度）

No.	開催日	参加者	エコ工作内容
1	4月10日（日）	26人	アメリカンクラッカー
2	5月8日（日）	18人	母の日の花束
3	6月12日（日）	39人	まつぼっくりのけん玉
4	7月10日（日）	21人	タラヨウのエコ宣言
5	8月14日（日）	12人	石や貝殻に絵を描く
6	9月11日（日）	36人	六角パズル
7	10月2日（日）	4人	どんぐりごま
8	11月20日（日）	50人	木の実の正月飾り※
9	12月11日（日）	29人	納豆容器のふたを使ったミニ額縁
10	1月8日（日）	49人	竹ぼっくり、こま
11	2月12日（日）	41人	折り紙のおひなさま
12	3月12日（日）	13人	エコかるた



タラヨウのエコ宣言

※ 11月はエコメッセフェスタ内催事として実施

○環境に配慮したごみ処理施設の整備（資源化・廃熱利用）

ごみ処理施設の適切かつ効率的な維持管理を行うために、資源化・廃熱利用に取り組んでいます。2022年度は、市内で回収された飲料缶やガラスびん、ペットボトル等10,988.65tを資源化しました。

ごみ焼却による廃熱を利用した廃熱ボイラによって発電し、その電力を場内で使用するとともに、本庁舎や小中学校等の公共施設110施設へ供給しています。2022年度は場内で629,468.7GJの廃熱を利用し、発電量は31,871,280kWhとなっています。

○資源分別収集

市内の約 7,400 か所に設置されたごみステーションで、家庭から出た飲料缶・ガラスびん・ペットボトル・新聞紙・雑誌・段ボール・古着・牛乳パックを 2002 年 10 月から、プラスチック製容器包装や金属類を 2013 年 4 月から資源として分別収集しています。



資源・ごみの
出し方便利帳

収集にあたっては、ごみ・資源の分別の徹底と排出マナーの向上を目的に、2007 年 2 月から指定袋制度を導入しており、2021 年 10 月からは金属類（発火性危険物）の指定袋（赤色）を導入しています。

資源は、ごみステーションでの収集をはじめ、子ども会や学校などの資源回収団体の活動による回収等があり、新聞、雑誌など 11 種類の資源の分別をしています。

蛍光管の拠点回収は、2019 年 10 月から開始し、2021 年 10 月から坂下出張所、味美ふれあいセンター、鷹来公民館及びレディヤンかすがいを加えた 12 施設で行っており、2022 年度は 2,843 本回収しました。なお、2020 年 11 月から愛知県電機商業組合春日井支部加盟の一部協力店舗でも回収を始めています。

資源回収状況

	2020 年度		2021 年度		2022 年度	
	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体
新聞	1,426.25 t	369.62 t	1,574.98 t	384.71 t	1,576.89 t	389.09 t
雑誌 (雑がみを含む)	1,712.94 t	189.52 t	1,641.77 t	183.59 t	1,583.99 t	182.43 t
段ボール	1,457.45 t	135.33 t	1,425.54 t	139.04 t	1,369.41 t	145.11 t
古着	573.52 t	16.61 t	531.83 t	21.18 t	458.34 t	19.48 t
牛乳パック	45.01 t	8.65 t	42.41 t	8.27 t	38.63 t	8.30 t
飲料缶	311.00 t	24.62 t (アルミ缶)	320.43 t	23.41 t (アルミ缶)	282.46 t	24.93 t (アルミ缶)
ガラスびん	1,600.65 t	0 t	1,523.73 t	0 t	1,503.35 t	0 t
ペットボトル	827.25 t	—	819.37 t	—	834.13 t	—
天ぷら油	12.26 t	—	11.17 t	—	9.56 t	—
プラスチック製 容器包装	2,816.92 t	—	2,850.68 t	—	2,797.94 t	—
金属類 (小型家電を含む)	1,120.85 t	—	765.49 t	—	533.95 t	—
合計	11,904.10 t	744.35 t	11,507.40 t	760.20 t	10,988.65 t	769.34 t

環境目標 5 都市環境・生活環境



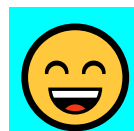
関連



快適な都市環境と良好な生活環境が確保されたまちをめざします。

指標の進捗状況

達成目標 交通の利便に対する満足度



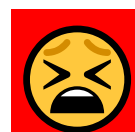
2021年度

2.86

2021年度の市民意識調査の結果、交通の利便に対する満足度は増加傾向となっています。

環境基準達成率（大気・水質・騒音）

2022年度は、大気・水質・騒音に関する全12項目中10項目が環境基準を達成しています。



2022年度

12項目中
10項目達成

⑨生活環境項目 BOD の 75% 値（市内中小河川）では、12 地点中 2 地点で環境目標値（市独自目標）の超過を確認しました。ただし、これらの中小河川が流入する⑧庄内川では、環境基準を満たしています。市では、工場事業場への指導や、合併処理浄化槽の普及促進の取組みを進めるとともに、下水道整備などの総合的な対策を継続して実施します。

⑫環境騒音（自動車騒音）では、環境基準をおおむね達成しており、騒音改善の措置を関係機関に要請する際の限度を超過した地点はありませんでした。

項目	区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定値点数	達成率 (%)	適合 可否
大気	① 二酸化硫黄(SO ₂) 日平均の2%除外値	0.001、0.002	ppm	日平均の2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、日平均0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	2/2	100	○
		超過日数	0				
	② 二酸化窒素(NO ₂) 日平均値の年間98%値	0.013~0.028	ppm	日平均の年間98%値が0.06ppm以下であること。	4/4	100	○
		超過日数	0				
	③ 浮遊粒子状物質(SPM) 日平均の2%除外値	0.021~0.027	mg/m ³	日平均の2%除外値が0.10mg/m ³ 以下であること。ただし、日平均0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続しないこと。	4/4	100	○
		超過日数	0				
	④ 一酸化炭素(CO) 日平均の2%除外値	0.31	ppm	日平均の2%除外値が10ppm以下であること。ただし、日平均10ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	1/1	100	○
		超過日数	0				

項目		区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定値点数	達成率 (%)	適合 可否
大気	⑤ 揮発性有機化合物 濃度平均値	ベンゼン	0.0010~0.0022	mg/m ³	1年平均値が0.003mg/m ³ 以下であること。	4/4	100	○
		トリクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が0.13mg/m ³ 以下であること。	4/4		
		テトラクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。	4/4		
		ジクロロメタン	0.0010~0.0011	mg/m ³	1年平均値が0.15mg/m ³ 以下であること。	4/4		
⑥	大気中のダイオキシン類平均値		0.011、0.016	pg-TEQ/m ³	1年平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。	2/2	100	○
水質	⑦ 健康項目 (庄内川・市内中小河川)		全項目適合	-	27項目設定*1	17/17	100	○
	⑧ 生活環境項目 生物化学的酸素要求量(BOD) の75%値(庄内川)		1.2~3.0	mg/L	2mg/L以下又は5mg/L以下 (河川区域による)	5/5	100	○
	⑨ 同(BOD)の75%値 (市内中小河川)		0.8~7.0	mg/L	(市独自目標)5mg/L以下*2	10/12	83.3	×
	⑩ 健康項目(地下水)	メッシュ別調査	全項目適合	-	28項目設定*3	1/1	100	○
騒音	⑪ 環境騒音(一般)	昼間	40~55	デシベル	55~60デシベル以下 (地域による)	9/9	100	○
		夜間	34~48	デシベル	45~50デシベル以下 (地域による)	9/9	100	
	⑫ 環境騒音(自動車騒音)	昼間	58~73	デシベル	70デシベル以下	10863/10914	*4 99.5	×
			56.8~100	%				
夜間	52~70	デシベル	65デシベル以下	10801/10914	*4 99.0			
	46.9~100	%						

※1:カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサンの27項目。

※2:春日井市環境基本計画(2022-2030)で環境目標値が見直された。

※3:※1のうち、シス-1,2-ジクロロエチレンに代わり、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレンを加えた28項目。

※4:騒音@環境騒音(自動車騒音)の達成率は、対象とする全戸数の達成率。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆市内バス※1の年間利用者数	3,796千人 (2020年度)	4,058千人 (2021年度)	5,415千人 (2025年度)		地域公共交通計画
基幹的公共交通の人口カバー率 (居住誘導区域)	65.7% (2010年度)	65.3% (2020年度)	65.5%以上 (2026年度)		立地適正化計画
自転車通行空間の整備延長[累計]	32.1km (2020年度)	32.1km (2022年度)	53.9km (2023年度)		自転車活用推進計画
污水处理人口普及率	88.4% (2020年度)	88.5% (2021年度)	95.0% (2026年度)		第六次総合計画

※1:名鉄バス及びかすがいシティバス

施策の展開

○高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業

ラストマイル（バス停から自宅までの道）交通を支えることを目的に、市と名古屋大学が連携し、2017年度以降ゆっくり自動運転送迎サービスの実証実験を実施してきました。2022年8月には、送迎サービスの担い手として地元住民によりNPO法人が設立され、同年10月からは有償運行が開始（サービス実装）、2023年2月からは国内初となる自家用有償旅客運送によるオンデマンド型自動運転サービスが開始されました。



高蔵寺ニューモビリティ
タウン構想

また、多様な移動手段の確保を目的に、2018年度以降、高蔵寺ニュータウンをフィールドにオンデマンド乗合サービス（乗合タクシー）の実証実験を実施してきました。乗合協力割引により5割程度運賃が割安であり、金額も事前に確定するので安心して利用できます。2021年6月以降、実証実験を継続しています。



ゆっくりカート



オンデマンド乗合サービス

○かすがいシティバス

公共交通空白地域における昼間の時間帯の高齢者の移動手段の確保及び環境負荷の軽減を目的として、4路線（東北部線、東南部線、西環状線、南部線）と1区域で、かすがいシティバスを運行しています。環境にやさしい交通手段の一つとして、多くの市民が利用しています。



かすがいシティバス

運賃は、200円の均一運賃（高齢者等一部割引有）となっています。

かすがいシティバス利用者数

2020年度	2021年度	2022年度
242,555人	261,370人	295,334人



かすがいシティバス

○事業所立入（大気、水質汚濁、土壌・地下水、騒音・振動、悪臭）

公害防止のため、水質汚濁防止法など、各種法令等に基づいて事業所の立入調査を行い、設備の維持管理状況等を確認することにより、規制基準の遵守や有害物質の適正管理、地下浸透の防止等の指導を行っており、2022年度における事業所立入件数は合計で344件となっています。

事業所立入件数（2022年度）

	大気・悪臭	水質汚濁	土壌・地下水	騒音・振動
立入件数	53	159	67	65

○合併処理浄化槽の設置費補助

生活排水の排出による公共用水域の水質汚濁の防止を図るため、生活雑排水（台所、風呂及び洗濯等の排水）と、し尿を併せて処理できる合併処理浄化槽の設置に対し、補助を実施しました。



合併処理浄化槽の
設置費補助制度

合併処理浄化槽設置費補助件数

人槽区分	2020年度		2021年度		2022年度	
	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}
5人槽	90	50	69	45	70	23
7人槽	25	33	30	33	16	21
10人槽	8	1	6	0	3	2
合計	123	84	105	78	89	46

※1:新設基数は建築確認申請を伴う工事

※2:転換基数はくみ取り便槽からの転換も含む

第3章 地球温暖化対策実行計画

地球温暖化対策実行計画の概要

計画の目的

市内から排出される温室効果ガスの削減や気候変動の影響への対処に向け、市民・事業者・市で取り組む対策を区域の自然的社会的条件に応じて、総合的、計画的に進めます。

計画改定の背景

2020年に、国により「2050年カーボンニュートラル宣言」がなされ、本市においても「ゼロカーボンシティ かすがい」を宣言し2050年二酸化炭素排出量実質ゼロをめざしています。

こうした状況の中、2050年カーボンニュートラル実現に向け、温室効果ガス排出量削減目標の見直しや再生可能エネルギー導入目標の設定、新たな施策を展開するため、2023年3月に計画を改定しました。

施策体系



計画の期間

基準年度を2013年度、目標年度を2030年度とし、動向の変化等に対応するため、必要に応じ見直すこととします。

削減目標の進捗状況

温室効果ガス排出状況

春日井市の温室効果ガス排出量の推移

(単位：千t-CO₂)

部門・分野	年度	基準年度 2013	2015	2016	2017	2018	2019	2020	最新年度 2021	増減率 (基準年度比)	増減率 (前年度比)
二酸化炭素	産業部門	774.1	711.0	762.4	663.6	720.5	694.3	584.9	集計中	-24.4%	-15.8%
	業務その他部門	408.3	374.9	322.4	321.2	325.1	304.7	276.1		-32.4%	-9.4%
	家庭部門	363.9	314.3	318.5	329.9	306.9	295.5	298.5		-18.0%	1.0%
	運輸部門	460.4	449.0	447.1	442.5	437.5	428.0	390.7		-15.1%	-8.7%
	廃棄物分野	13.6	13.6	16.8	27.6	16.3	19.9	31.5		132.1%	58.5%
	二酸化炭素 小計	2,020.3	1,862.7	1,867.2	1,784.8	1,806.3	1,742.3	1,581.8		-21.7%	-9.2%
その他	メタン	3.0	2.5	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	-3.7%	-0.7%	
	一酸化二窒素	6.7	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.3	-5.2%	-4.4%	
温室効果ガス 合計		2,030.0	1,871.8	1,876.7	1,794.2	1,815.8	1,751.8	1,591.0	-21.6%	-9.2%	

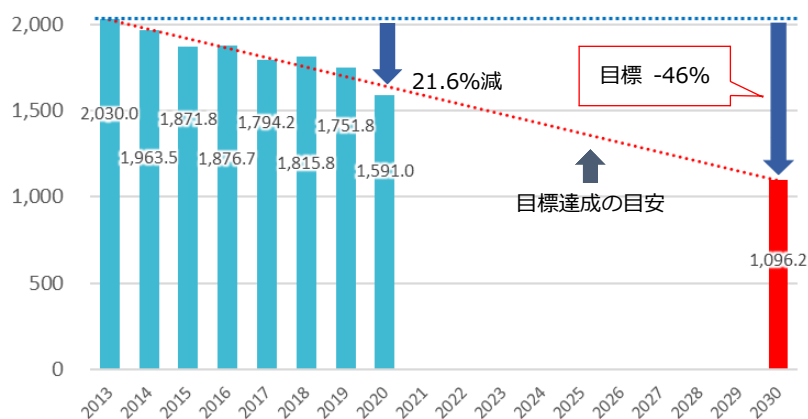
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※各種統計データ、算定方法の見直し等により、再計算しています。

※推計に使用する都道府県別エネルギー消費統計の最新の公表値が2021年度のため、最新年度が2021年度となっています。

削減目標 温室効果ガス総排出量（2013年度比）

(千t-CO₂)



2021年度
集計中

温室効果ガス排出量の推移と削減目標の関係

温室効果ガス排出量増減の主な要因

温室効果ガス排出量集計後記載します

削減目標 部門別二酸化炭素排出量（2013年度比）

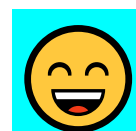
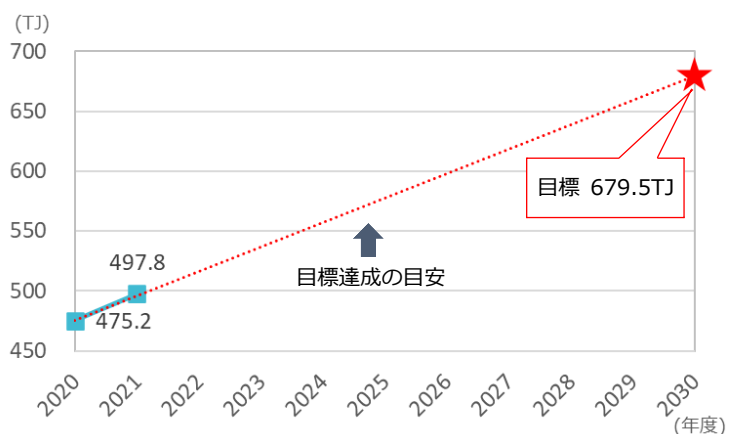
（単位：千t-CO₂）

部門	基準値 (2013年度)	前年度 (2020年度)	最新値 (2021年度)	目標値 (2030年度)	進捗 状況	(参考) 最新値 前年度比
産業部門	774.1	584.9	集計中	479.9		
【2013年度比】	【—】	【-24.4%】		【-38%】		
業務その他部門	408.3	276.1		200.1		
【2013年度比】	【—】	【-32.4%】		【-51%】		
家庭部門	363.9	298.5		123.7		
【2013年度比】	【—】	【-18.0%】	【-66%】			
運輸部門	460.4	390.7	299.3			
【2013年度比】	【—】	【-15.1%】	【-35%】			

部門別二酸化炭素排出量増減の主な要因

部門	主な要因（基準年度比）	主な要因（前年度比）
産業部門	部門別二酸化炭素排出量集計後記載します	
業務その他部門		
家庭部門		
運輸部門		

再生可能エネルギー導入状況



2021年度
497.8TJ

再生可能エネルギーによる発電電力量は目標達成に向けて順調に進んでいます。

成果指標の進捗状況




緩和策－温室効果ガスの排出を削減

成果指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
太陽光発電（10kW 未満）	39,799kW	43,281kW	57,304kW	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2030 年度)	
各世帯の1か月あたりの 平均電気使用量	291kWh	280kWh	245kWh	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2030 年度)	
業務その他部門の延床面積 1㎡ あたりの年間エネルギー消費量	1.24GJ	1.22GJ	0.74GJ	
	(2019 年度)	(2020 年度)	(2030 年度)	
自動車1台あたりの 年間化石燃料消費量	0.98 kL	0.84kL	0.52kL	
	(2019 年度)	(2020 年度)	(2030 年度)	
市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (公用車除く) ※1	23,022 t-CO ₂	21,003t-CO₂	16,016t-CO ₂	
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2030 年度)	
青空教室、ゼロカーボン推進講座の 参加人数 [延べ]	83,462 人	88,956 人	120,000 人	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2030 年度)	
市内バス※2の年間利用者数	3,796 千人	4,058 千人	5,415 千人	
	(2020 年度)	(2021 年度)	(2025 年度)	
市内全体の緑被率	42.0%	40.6%	維持	
	(2014 年度)	(2020 年度)	(2030 年度)	
一人1日あたりごみ排出量	706g	687g	660g	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2028 年度)	

※1：電力会社が供給した電力量と排出係数により算出した値から、排出クレジットや固定価格買取制度に伴う調整等を反映した値

※2：名鉄バス及びかすがいシティバス

適応策－既に起きている気候変動への対処

成果指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
災害への備えをしている 家庭の割合	50.5%	55.3%	60.0%	
	(2016 年度)	(2021 年度)	(2026 年度)	
雨水流出抑制施設 [累計]	53 施設	56 施設	55 施設	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2030 年度)	
熱中症の搬送人数	88 人	137 人	減少	
	(2021 年度)	(2022 年度)	(2030 年度)	

施策の展開

〇ゼロカーボン推進啓発講座

2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けた地球温暖化対策の取組みを着実に進めていくため、2021年6月22日に「ゼロカーボンシティ かすがい」を宣言しました。



ゼロカーボン
推進講座

この宣言を推進するため、鈴与電力株式会社と「公共施設への電力供給とゼロカーボン推進に関する連携協定」を結び、鈴与グループの協力会社三社を加えた五者で覚書を交わしました。

協定に基づき、地球温暖化対策に対し自ら考え、実践できる次世代の人材育成を図り、子どもから家庭への波及を通して地球にやさしいライフスタイルへの転換を促すため、小中学生やその保護者を対象とした啓発講座を開催しました。

<ゼロカーボン推進講座>

覚書を交わしたしずおか未来エネルギー株式会社の企画のもと、小学校4年生、中学校1年生を対象に、地球温暖化や資源循環などを学ぶ「ゼロカーボン推進講座」を開催しました。小中学校でのクリーンセンター発電電力の活用（電力の地産地消）など身近な題材を使い、学校生活を通して学び、考え、実践する機会としています。



小学校4年生向けオンライン講座



中学校1年生向け出前講座

小学校4年生向けゼロカーボン推進講座の実施概要

実施日	学校名	人数	CO ₂ 削減量 ^{※1}
7月13日(水)	鳥居松小学校	80名(3クラス)	133.6kg
	石尾台小学校	34名(1クラス)	52.8kg
	西山小学校	46名(2クラス)	82.5kg
9月27日(火)	岩成台小学校	37名(2クラス)	67.6kg
	牛山小学校	47名(2クラス)	79.3kg
1月17日(火)	勝川小学校	143名(3クラス)	260.3kg

※1：7Daysチャレンジ（家庭での地球温暖化対策）に取り組み、その結果削減できた二酸化炭素の量の合計値（概算）

中学校1年生向けゼロカーボン推進講座の実施概要

実施日	学校名	人数	選択メニュー
7月4日(月)	藤山台中学校	90名(3クラス)	グリーンコンシューマーになろう！
3月3日(金) ^{※1}	知多中学校	182名(6クラス)	地球温暖化問題について

※1：生徒数が多いため、3クラスずつ2回に分けて講座を実施

<カーボンフリー環境講座>

覚書を交わした株式会社フジドリームエアラインズの企画のもと、小学生とその保護者を対象に、空港資源を活用した航空会社が取組む地球温暖化対策を学ぶ「カーボンフリー環境講座」を開催しました。



カーボンフリー
環境講座

当日は、小学生とその保護者 17 組 35 名の方に参加いただき、「フジドリームエアラインズにおける地球温暖化防止への取組み」についての講義の後、格納庫へ移動し、機体等の見学や機体への寄せ書きを体験しました。



機体等の見学

○住宅用太陽光発電システム・燃料電池・蓄電池・HEMS などの設置費補助

エネルギーを効率的に利用して節約する省エネ機器やエネルギーを創り出す創エネ機器、エネルギーを蓄えて必要なときに利用できる蓄エネ機器等の設置に対し、補助を実施しました。



住宅用地球温暖化対策
機器設置費の補助制度

なお、1998 年度からの累計で、5,034 件、23,421kW の太陽光発電システムに対し補助しました。それにより、年間約 10,141 t^{※1}の二酸化炭素排出量の削減が見込まれます。

住宅用地球温暖化対策機器設置費補助件数

内容	2020 年度	2021 年度	2022 年度
一体的導入 ^{※2}	60 件	78 件	114 件
燃料電池システム	82 件	68 件	64 件
家庭用エネルギー管理システム	46 件	45 件	64 件
定置用リチウムイオン蓄電システム	138 件	114 件	144 件
窓断熱改修	15 件	13 件	24 件
電気自動車等充給電設備<新規>	—	—	5 件

※1：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2022 年度）の二酸化炭素排出係数 0.433 (kg-CO₂/年)

※2：太陽光発電システム、家庭用エネルギー管理システム、定置用リチウムイオン蓄電システムの一体的導入補助

〇エコライフセミナー

家庭でできる地球温暖化対策や環境に優しいライフスタイルへの転換、エネルギーの大切さについて学び、考えるきっかけづくりとして、エコライフセミナーを実施しました。



エコライフセミナー

実施内容（2022 年度）

イベント名	開催日	参加者	内容
竹であそぼう！ ～水でっぼう作り～	8月3日 (水)	17組 46人	ゼロカーボンミニ講座で地球温暖化対策や環境に優しいライフスタイルへの転換について学んだ後、竹を使った水でっぼうを作り、その水でっぼうで打ち水を実施した。



竹で水でっぼう作り



打ち水

○太陽光発電システム等の導入による公共施設の脱炭素化

公共施設の屋根等を利用し、自然エネルギーを活用した太陽光発電システムの導入を進めることで、公共施設の脱炭素化に努めています。

太陽光発電システム設置施設

No	施設名	設置年月	最大出力値	年間 CO ₂ 削減量 ^{※1}
1	第一希望の家	2000年2月	10.0 kW	4.3t-CO ₂
2	丸田小学校	2002年2月	30.0 kW	13.0t-CO ₂
3	勝川駅南口立体駐車場	2002年11月	6.5 kW	2.8t-CO ₂
4	出川小学校	2007年2月	30.0 kW	13.0t-CO ₂
5	小野保育園	2011年3月	5.0 kW	2.2t-CO ₂
6	少年自然の家	2012年3月	40.0 kW	17.3t-CO ₂
7	エコメッセ春日井	2012年3月	10.0 kW	4.3t-CO ₂
8	神領保育園	2013年3月	5.0 kW	2.2t-CO ₂
9	落合公園体育館	2013年4月	10.0 kW	4.3t-CO ₂
10	知多公民館 ^{※2}	2014年3月	49.5 kW	21.4t-CO ₂
11	総合保健医療センター ^{※2}	2014年4月	47.5 kW	20.6t-CO ₂
12	東部調理場	2014年9月	30.0 kW	13.0t-CO ₂
13	東部市民センター ^{※2}	2015年12月	60.2 kW	26.1t-CO ₂
14	総合福祉センター ^{※2}	2016年1月	38.7 kW	16.8t-CO ₂
15	坂下公民館	2016年1月	20.0 kW	8.7t-CO ₂
16	衛生プラント処理棟 ^{※2}	2016年3月	125.1 kW	54.2t-CO ₂
17	味美ふれあいセンター ^{※2}	2016年3月	49.5 kW	21.4t-CO ₂
18	西部ふれあいセンター ^{※2}	2016年3月	47.3 kW	20.5t-CO ₂
19	総合体育館 ^{※2}	2016年3月	51.6 kW	22.3t-CO ₂
20	新藤山台小学校 ^{※2}	2016年3月	30.0 kW	13.0t-CO ₂
21	J R 春日井駅	2016年7月	46.0 kW	19.9t-CO ₂
22	第一保育園 ^{※2}	2016年9月	56.7 kW	24.6t-CO ₂
23	本庁舎	2016年12月	20.7 kW	9.0t-CO ₂
24	清掃事業所 ^{※2}	2016年12月	315.9 kW	136.8t-CO ₂
25	市営下原住宅 ^{※2}	2018年11月	49.2 kW	21.3t-CO ₂
合計 ^{※3}			1,184.4 kW	512.8t-CO ₂

※1：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2022年度）の二酸化炭素排出係数0.433（kg-CO₂/年）

※2：屋根貸しにより設置

※3：四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

○エコライフ DAY の普及啓発

毎月第1水曜日を「エコライフDAY」と定め、市民や事業者の皆さんそれぞれが地球環境に優しい行動を積極的に行う日としています。啓発チラシを配布するほか、庁内放送による周知、環境カレンダー（ごみ出しカレンダー）へ記載するなどエコライフDAYの普及を図っています。



エコライフDAY

2022年8月3日（水）のエコライフDAYには、日本古来の涼み方である「打ち水」を市役所で72人、その他市公共施設で305人（45施設）、かすがいエコオフィスで326人（42事業所）の皆様にご参加いただき、市内各所で行いました。

打ち水参加かすがいエコオフィス認定事業所（2022年度）

No.	施設名	No.	施設名
1	愛知タイヤ工業株式会社 春日井工場	22	株式会社中部レキセイ
2	株式会社ウエダ	23	株式会社ティーイーティー
3	王子製紙株式会社 春日井工場	24	デイサービス喜峰
4	株式会社大垣共立銀行 味美支店	㊸	東海記念病院
5	株式会社大垣共立銀行 春日井支店	㊹	東海労働金庫 春日井支店
6	株式会社大垣共立銀行 春日井市役所出張所	27	東春信用金庫 朝宮支店
7	株式会社大垣共立銀行 勝川支店	28	東春信用金庫 春日井支店
8	株式会社大垣共立銀行 高蔵寺支店	29	東春信用金庫 勝川支店
9	株式会社大垣共立銀行 東野支店	30	東春信用金庫 高蔵寺支店
10	介護老人保健施設 グレイスフル春日井	㊺	東春信用金庫 坂下支店
11	亀甲通運株式会社	32	東春信用金庫 六軒屋支店
㊻	木野瀬印刷株式会社	33	東濃信用金庫 小野支店
13	グレイスフル浅山	34	東濃信用金庫 勝川支店
14	株式会社春水園	35	東邦ガスネットワーク株式会社 名古屋地域センター 春日井事業所
15	昭和精機株式会社 高蔵寺工場	36	トヨタホーム株式会社 春日井事業所
16	株式会社ソシオネクスト高蔵寺事業所	㊼	株式会社服部工務店
㊽	第2グレイスフル春日井	38	パナソニック エコシステムズ株式会社
18	大和エネルギー株式会社	㊾	パナソニック エコシステムズ バンテック株式会社
19	中部精機株式会社 本社	40	株式会社ビクター化学工業所
20	一般財団法人中部電気保安協会 春日井営業所	41	株式会社松浦組
21	中部電力パワーグリッド株式会社 春日井営業所	42	レンゴー株式会社 新名古屋工場

○：2022年度新規参加事業所

○緑のカーテンの推進

市では、家庭や事業所でできる地球温暖化対策、節電対策、ヒートアイランド対策等として有効な「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、実演を交えながらゴーヤの育成方法を学ぶ「緑のカーテン育成講座」を実施しました。



緑のカーテン

2022年度は、公共施設 72 施設、かすがいエコオフィス認定事業所 7 か所において「緑のカーテン」が設置され、市のホームページにおいても取り組みを紹介しました。

緑のカーテン育成講座（2022年度）

開催日	場所	参加人数
5月8日（日）	高蔵寺ふれあいセンター	12人
5月10日（火）	西部ふれあいセンター	11人
5月17日（火）	南部ふれあいセンター	6人



緑のカーテン育成講座



苗の植付けの実演

緑のカーテン設置エコオフィス認定事業所（2022年度）

No.	事業所名
1	株式会社大垣共立銀行 春日井支店
②	東濃信用金庫 小野支店
③	東海記念病院
4	グレイスフル浅山
5	株式会社ビクター化学工業所
6	株式会社エージック
⑦	一般社団法人中部電気保安協会 春日井営業所

○：2022年度新規参加事業所



株式会社ビクター化学工業所で
設置された緑のカーテン

○熱中症に関する情報提供、注意喚起

市では、7～9月各週の火曜日と金曜日に、当日以降3日間において暑さ指数が33以上となる日が予測される場合に、安全安心メールなどを通じて熱中症の注意喚起メールを送信するほか、市ホームページを通じた情報提供を行いました。



安全安心情報
ネットワーク

メールでの注意喚起（2022年度）

	回数	登録数
春日井ハッピー맘ズ（随時配信）	1回	805件
安全安心メール（随時配信）	18回	24,373件
保育園等幼児施設、包括支援センター等宛メール	1回	72件

※春日井ハッピー맘ズのメルマガ配信は2022年度末をもって終了

○熱中症啓発川柳コンテストの実施

市では、熱中症予防対策に対する意識を醸成するため、熱中症を題材とする川柳を募集しました。応募された川柳から選んだ各部門の投票対象作品10作品に対する市民投票を経て、入賞作品を決定し、市ホームページ等で広く周知を行いました。

川柳応募数（2022年度）

部名	応募数（句）
小学生の部	361
中学生の部	185
一般の部	58



熱中症に気を
付けましょう！

令和4年度受賞作品一覧

小学生の部

最優秀
水筒は 今日のアナタの命綱

優秀
水飲んで 自分をまもる 暑い夏

優秀
無理はダメ エアコンつけて マスクとる

中学生の部

最優秀
浴衣着て 密さけ蜜かけ かき氷

優秀
忘れずに こまめにとろう 夏の水

優秀
炎天下 花にも祖母にも 水あげる

一般の部

最優秀
マスクよし 水筒持ったね さあ行こう

優秀
汗ひとつ 危険信号 水を飲む

優秀
マスク取り 日陰で涼み ひとやすみ

○雨水流出抑制施設の設置促進

大雨時の浸水被害を軽減させるため、公園や区画整理区域内に表面貯留施設や地下貯留施設を設置し、雨水流出抑制対策を推進しています。



治水の取り組み

2022年度までに56施設を設置し、累計の貯留量は202,521立方メートルとなります。



熊野桜佐雨水2号調整池

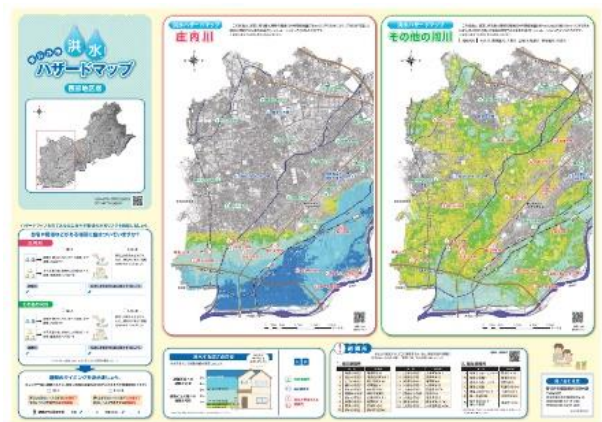
○洪水ハザードマップ及び避難情報等に関する情報提供、注意喚起

市では、国・県管理河川の洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ及びため池ハザードマップを作成し、自然災害が想定される区域及び避難場所、避難経路を示しています。



洪水ハザードマップ

また、洪水等により避難が必要となった場合に、市ホームページ、緊急速報メール、安全安心メール^{※1}、音声架電システム^{※2}、Lアラート、X（元 Twitter）、LINE、広報車等様々な手段を用いて避難情報を提供しています。



洪水ハザードマップ

※1：安全安心メール：「春日井市安全安心情報ネットワーク」に情報配信登録をされた方に気象情報（気象、地震、避難情報等）などをメールで配信

※2：音声架電システム：区長・町内会長・自治会長等（避難情報等を発令した地域が対象）に対し、自動音声による電話連絡を一斉に行うことができるシステム

第4章 生物多様性地域戦略



生物多様性地域戦略の概要

策定の意義

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性を浸透させるとともに、多様な主体による取組みを進めることです。

めざすまちの姿

東部の丘陵や河川沿いに広がる田園地帯などを中心とした豊かな生態系や良好な景観が、多様な主体の活動により保全され、その恩恵が享受できています。

私たちの暮らしが生物多様性による恵みによって支えられていることを、一人ひとりが正しく理解し、次世代へ継承されています。

戦略の体系

— 基本方針 —

— 施策 —

1

多様な生き物の生息・生育環境の保全

- ・生息・生育環境の保全
- ・関係部署との連携
- ・外来種対策

2

持続可能な生物多様性の恩恵の享受

- ・良好な自然環境の維持
- ・恩恵の持続的な利用
- ・自然とのふれあいの場の提供

3

生物多様性を支える人材の育成

- ・環境啓発の拡充
- ・保全活動の推進
- ・生物多様性を支える仕組み作り

基本方針 1 多様な生き物の生息・生育環境の保全

目標の進捗状況

目標 市域全体の自然環境基礎調査

市域全体の自然環境基礎調査の計画立案をしています。

施策の展開

○希少野生動植物種の保護

市では、希少な野生動植物を守るために、2012年1月10日、市指定希少野生動植物種8種を指定しました

○植物：シデコブシ、ササユリ、ヒメカンアオイ

○動物：カヤネズミ、ヨタカ、ナゴヤダルマガエル、ギフチョウ、ヒメタイコウチ

自然環境保全活動推進員が毎年度継続的に月1回の巡視活動を実施し、希少種の調査や保護啓発を行っています。また、緑と花のフェスティバルやエコワールドなどで自然環境保全や外来種問題等について、パネル展示やパンフレットにより周知啓発を行っています。



指定希少野生動植物種



パンフレット「守りたい春日井の自然」

○外来種の放逐等の規制

市内で問題となっている身近な外来種を取り上げ、「外来種はどんな問題を起こすのか」、「どのように入ってきたのか」を例示し、外来種問題を「知ること」、「認識すること」を目的としてパンフレットを作成しています。



外来種について





市内で捕獲されたカミツキガメ



外来種に関するパンフレット

基本方針 2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
市内全体の緑被率	42.0% (2014 年度)	40.6% (2020 年度)	維持(40.6%) (2030 年度)	
民有地緑化の箇所数を増やす (あいち森と緑づくり事業)	2 箇所 (2021 年度)	3 箇所 (2022 年度)	5 箇所 (2030 年度)	

施策の展開

○少年自然の家周辺での取組み

愛知高原国定公園に指定されている、優れた自然環境に恵まれた少年自然の家周辺において、地域の自然を活かした様々な自然学習を実施しました。(25 イベントで延べ 9,203 人参加。)



少年自然の家



少年自然の家周辺での自然学習 (2022 年度)

イベント名	開催日等	参加者	内容
全力!N スポーツ× キャンプ	5月14日(土) ～5月15日(日)	17人	薪割りマラソン、トレイルランニング、カナディアンカヌーなど、自然の中で身体を動かし、その良さを体感した。
野外活動・自然体験 指導者講座	5月21日(土)	16人	プロジェクト・ワイルドのエducーター養成講座
きらめきキャンプ ホテル&カヌー	6月4日(土) ～6月5日(日)	34人	ナイトハイクでのホテル観察、ホテルの住む川に流れる水を貯める築水池でのカヌー体験を通して、自然の中での活動を楽しんだ。
ハチミツしぼり体験	6月18日(土)	40人	ミツバチの生態を学び、自然とのつながりを考える機会を与え、ハチミツをしぼって自然の恵みを味わった。
築水池カヌー体験	7月16日(土) 7月17日(日)	51人	カヌーでしか味わえない景色を楽しむとともに水鳥の視点で水上から自然観察を実施した。
サマーキャンプ 2022	7月30日(土) 8月11日(木) ～8月15日(土)	22人	子どもだけの長期(4泊5日)テント泊のキャンプを実施した。
自然体験プログラム (夏季・冬季)	夏季7月21日(木) ～8月31日(水) 冬季12月24日(土) 他5日	523人	夏季 ナイトハイクと天体観測・火おこし体験他 冬季 餅つき・キャンドルづくり・たき火&焼きいも他
全力!虫とり ×キャンプ	9月17日(土) ～9月18日(日)	21人	虫ざんまいのキャンプを実施した。

イベント名	開催日等	参加者	内容
万葉の花めぐり	7月7日(木) 11月10日(木)	延べ27人	万葉集の和歌を楽しみ歌にある植物の観察会を実施した。
初めて挑戦! アウトドア[夏]	6月11日(土) ~6月12日(日)	37人	初めての仲間と宿泊棟に泊まり、季節にあわせた自然体験を実施した。
初めて挑戦! アウトドア[秋]	10月29日(土) ~10月30日(日)	38人	
初めて挑戦! アウトドア[冬]	11月26日(土) ~11月27日(日)	37人	
地域ミライ防災 ×キャンプ	11月5日(土) ~11月6日(日)	24人	災害時に必要な技術を学ぶキャンプを実施した。
冬のファミリー キャンプ	12月10日(土) ~12月11日(日)	41人	家族で自然素材を使ったリースづくり、もちつき等を実施した。
たき火くらぶ	12月~2月の平日	134人	マツ枯れ被害を食い止めるため、その防除を目的に伐採した材を中心にたき火と冬の自然に親しんだ。
わくわく自然ランド	年4回実施	147人	身近なフィールドである春日井の東部丘陵の魅力と四季折々の自然に触れるイベントを実施した。
あそびむしくらぶ	年10回実施	224人	2、3歳児とその保護者を対象として、年間を通じて身近な自然環境を体験するイベントを実施した。
自然学校	年5回実施	71人	地域特有の湿地と生物の観察や雑木林の手入れを通して里山の生物多様性とその保護の必要性を学ぶイベントを実施した。
大人の里山歩き	年7回実施	94人	東部丘陵の四季折々の自然を感じながら里山歩きを実施した。
ツキイチ里山歩き隊	年10回実施	126人	里山の自然を楽しみ、健康維持のためのウォーキングやトレッキングを実施した。
里山体験 [田んぼと森の学校]	年9回実施	188人	米作りや森の手入れを中心に、豊かな里山の自然を五感を使って楽しむ講座を実施した。
環境教育プログラム	随時	1,808人	プロジェクト・ワイルドのアクティビティで野生生物の生態や行動を通じて、自然環境について学ぶ教育プログラムを実施した。
ネイチャーガイド ×トレッキング	随時	2,599人	小学5年生(野外学習)を対象にガイドと一緒に歩き、四季折々の自然を感じながらトレッキングを実施した。
野外学習 夜間プログラム	随時	2,398人	ナイトハイクをしながら夜の野生生物の生態について学ぶ学習プログラムを実施した。
出張自然講座	随時	489人	申込者のニーズにあわせた自然講座を実施した。

基本方針 3 生物多様性を支える人材の育成

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
「生物多様性」の言葉の意味の認識率	—	51.2% (2020 年度)	75.0% (2030 年度)	
☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期2年）〔延べ〕	190 人 (2019 年度)	226 人 (2021 年度)	350 人 (2030 年度)	

施策の展開

○自然観察会・自然環境学習会

自然とふれあう機会の提供と、自然環境の保全に対する理解と関心を深めるため自然環境保全活動推進員が講師となり、自然観察会・自然環境学習会を実施しています。

2022 年度は、自然観察会と秋に 2 回自然環境学習会を実施しました。



自然観察会
自然環境学習会

実施内容（2022 年度）

イベント名	開催日	場所	参加者	内容
自然観察会	5月28日（土）	庄内川	50 人	庄内川でガサガサ体験（川の水質調査、川の中の観察、生物採取）を行った。
秋の自然環境学習会 「自然観察と鉢植え」	9月25日（日）	少年自然の家	24 人	少年自然の家周辺の山林の中で野生植物等の観察を行った。また、希少種の鉢植えを行った。
秋の自然環境学習会※ 「自然観察と工作」	11月12日（土）	潮見坂 平和公園	26 人	潮見坂平和公園の山林や竹林の中で野生植物等の観察を行った。また、公園内の自然素材を使った工作を行った。

※「子ども環境アカデミー」の講座として実施



自然環境学習会



自然観察会

○自然環境保全活動推進員

自然環境の保全に関する知識の普及や保全活動の推進のため、2022年度は、第8期(2021、2022年度)の推進員34人で活動しました。

この推進員は、自然環境の保全を推進するリーダーとして、次の役割を担います。



自然環境保全活動推進員

- ① 自然環境の保全に関する普及活動の推進
- ② 自然環境の保全に必要な巡回活動
- ③ 自然環境調査等への協力
- ④ 指定希少野生動植物種の保護啓発の巡回活動

～2022年度の活動内容～

- 1 希少種保護の巡回活動 月1回
- 2 意見調整や情報交換のための連絡会議 年6回
- 3 資質向上のためのステップアップ講座 年6回
 - 4月「竹林の整備」、「ギフチョウの成体数調査」 5月「ツバメ調査」
 - 9月「春日井の蝶の生態と種類を学ぶ」 11月「ネイチャーゲーム」、「施設見学」



ステップアップ講座
(春日井の蝶の生態と種類を学ぶ)



ステップアップ講座
(施設見学)

環境報告書(2023年度版)

2024年3月 発行

編 集 春日井市環境部環境政策課
〒486-8686 春日井市烏居松町5丁目44番地
電 話 (0568)85-6216
F A X (0568)84-8731
E-mail kansei@city.kasugai.lg.jp